

## 子供の頃の夢

□加高等学校  
校長 狩野 博臣

7月7日は七夕である。小学生の頃、色紙に願い事を書いて笹の葉につるしたことを思い出す。残念なことに短冊に何と書いたのか全く記憶にない。「プロ野球選手になれますように」とか「北の湖のように強い横綱になれますように」とでも書いたのだろうか。思い出せないくらいの細やかな夢だったのか、それとも夢もない小学生だったのか。

今日（6月30日）の朝刊1面で、日本がサッカーワールドカップで2大会ぶりに決勝トーナメントに進出したことを伝えている。記事の横には、本田圭介選手らがサポーターに向かって拍手したり、手を振ったりしている大きな写真が添えられている。この日本代表の選手たちの子供の頃の夢は、もちろんサッカー選手だったのだろうか。次は、本田選手が「将来の夢」と題して小学校の卒業文集に寄せた作文である。

### 「将来の夢」

ぼくは大人になったら、世界一のサッカー選手になりたいと言うよりなる。世界一になるには、世界一練習しないとダメだ。だから、今、ぼくはガンバっている。今はヘタだけれどガンバって必ず世界一になる。そして、世界一になったら、大金持ちになって親孝行する。Wカップで有名になって、ぼくは外国から呼ばれてヨーロッパのセリエAに入団します。そしてレギュラーになって10番で活躍します。一年間の給料は40億円はほしいです。プーマとけいやくしてスパイクやジャンパーを作り、世界中の人が、このぼくが作ったスパイクやジャンパーを買って行ってくれることを夢みている。一方、世界中のみんなが注目し、世界中で一番さわぐ4年に一度のWカップに出場します。セリエAで活躍しているぼくは、日本に帰りミーティングをし10番をもらってチームの看板です。ブラジルと決勝戦をし2対1でブラジルを破りたいです。この得点も兄と力を合わせ、世界の強ゴウをうまくかわし、いいパスをだし合って得点を入れることが、ぼくの夢です。

小学6年生の時に本田少年が描いた夢のほとんどが実現していることに驚く。この作文を読むと気付くことがある。①サッカー選手になりたいではなく具体的に将来像を描いている ②数値目標を掲げている ③ヘタという現状認識をしている ④努力が必要であることを自覚している ⑤叶える夢に段階があり、時間経過がある ⑥家族への思いがある

小学6年生の本田少年は、将来の自分の姿をはっきりと映像として描きながら書いたのだろう。鉛筆を走らせているときのワクワク感が伝わってくるようである。

この作文を読むと、将来の夢の見方は大きく2パターンあるように思う。一つは、本田選手のように将来の具体的で鮮明な自分のイメージを持ち、そこからさかのぼって今何をすべきかを考えて具体的に行動し、実現していくタイプ。もう一つは、今ある自分（現状）から将来を展望していくタイプ。換言すれば、将来から今の自分を見つめるタイプと、今の自分から将来の自分を見つめるタイプである。スポーツ界に限らず、あらゆる分野において名を成す方々の多くは前者のタイプではないだろうか。

7月7日、本校の野球部は高校野球地区予選の初戦を迎える。対戦相手は北松西高校。夜空に輝くおりひめとひこぼしに祈りたい。どうか本校野球部が初戦を突破できますように。 それでは、皆様にとりまして健やかな7月となりますように。